

# 地域と学校の協働通信

令和5年3月28日  
武蔵野市教育委員会  
指導課教育推進室  
第8号

## 学校運営協議会機能を取り入れた 開かれた学校づくり協議会(モデル校)を開始します



### 学校・家庭・地域の協働体制検討委員会報告書

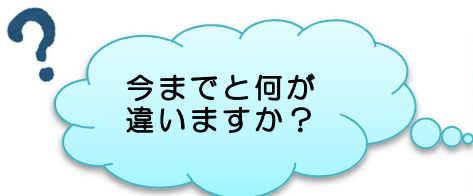
市では、令和3年10月から学校・家庭・地域の協働体制検討委員会を設置して、「未来を担う子どもたちのために」という理念を前提として、テーマを『「学校運営」に関する協働体制について』に絞って検討を行ってきました。令和4年12月に提出された「学校・家庭・地域の協働体制検討委員会報告書」では、**現行の「開かれた学校づくり協議会」の仕組みを活用し、学校運営協議会機能を取り入れて互いのベクトルを合わせる場として強化する**方向性を見出しています。市教育委員会ではこの報告書を学校・家庭・地域の協働体制の在り方の方針とすることとしました。

報告書はこちらからご覧いただけます👉



### モデル校の決定

学校運営協議会の機能を有する「開かれた学校づくり協議会」のモデル校を**境南小学校**と**第一中学校**に設置します。モデル校での実践は効果の検証を行い、検証結果を学校・家庭、地域団体やモデル校以外の開かれた学校づくり協議会や各校にフィードバックします。そこで生じた課題等については、改善策を協議・検証しながら、モデル校の運営に生かしていきます。



今までと何が  
違いますか？

これまでの開かれた学校づくり協議会は学校評議員であり、校長に意見を述べる仕組みでした。これからは、学校運営のパートナーとなり、校長を含めた委員の合議制による協議を行うようになります。保護者や地域住民の当事者意識が醸成され、責任をもって教育に携わるようになり、より学校・家庭・地域の一体性が高まります。

### 学校運営協議会の3つの機能

#### ①学校運営の基本方針を承認する

- 委員でもある校長先生は、自身の作成する学校運営の基本方針を委員に丁寧に説明し、「ともに子どもを育てる」思いの共有を図ります。開かれた学校づくり協議会(モデル校)では、議論や合意形成を経て、学校運営の基本方針を承認します。

#### ②学校運営に関する意見を述べる

- 学校は学校運営の状況、子どもたちの様子や教育活動について情報提供や説明をします。委員は、学校の基本方針を実現するために課題解決や改善に向けた建設的な議論をします。

#### ③教員任用(学校に必要な人材像)に関する意見を述べる

- 委員は、職員構成、経験、得意分野や専門性など、その学校の特色にあった人材像に対して希望する意見を述べることができます。



その他、事前の資料共有やオンライン会議など参加しやすい仕組みを作ります。地域の協力者とも公式メールやSNSでやり取りできるよう、ICTツールを使ってつながりを広げ、地域学校協働活動を活発化できるよう検討します。





## 「地域の協力者リスト」の活用事例紹介

教育推進室では、「学校教育に関心のある方で、特技や趣味を生かして児童・生徒への指導や学校への協力をしていただける方」を募集し、『**学校支援協力者リスト**』を作成しています。リスト登録者数は延べ119名(R5.3現在)。リストは市内の市立小中学校及び地域コーディネーターに配布しています。希望に合う方がいた場合には、直接ご本人と連絡を取っていただいています。

### 第一小地域コーディネーター：平田 由美子さん

ある日、学校から授業中の見守りサポートをしてくださる方を知らないかという問い合わせがありました。自分の知っている方をあたってみましたが、なかなか見つかりませんでした。そんなときに教育推進室の統括コーディネーターから「地域の協力者リスト」をすすめられ、そこからサポートをしてくださりそうな方と連絡を取ることができ、無事勤めてくださることになりました。

その方は学校とよい関係を築いてくださり、その後もティーチングアシスタントとして学校と引き続き関わっていただきました。



自分の得意分野を生かして学校教育に協力していただける方、**随時募集中**です！



## 地域コーディネーターが活躍しています ～関前南小学校編～

地域コーディネーターは、各校に配置(委嘱)され、「開かれた学校づくり協議会」やPTA、地域の団体等と協力しながら、学校支援協力者に関する学校への情報提供と、その連絡調整を行っています。

今回、関前南小学校の子どもたちが5年生からの武蔵野市民科につながる市民性を育成する取組としてプレセカンドスクールに行った静岡県島田市と武蔵野市を比較して、「武蔵野市(千川上水周辺)も自然豊かで水生生物なども住みやすい環境にしたい！」という思いをもったことをきっかけに、地域コーディネーターが学習支援のコーディネートを行い、子どもたちが自然環境教育を行うNPO法人や武蔵野市に取材しました。そうして子どもたちが学習した内容は、「千川上水沿いのごみを減らすためには、生き物が住める環境にするには」と市長に提言するまで発展しました。提言を聞いた市長からも、身近な環境に目を向けてくれたことへの感謝と、意見をどう反映できるか考えたい、との言葉をいただきました。

